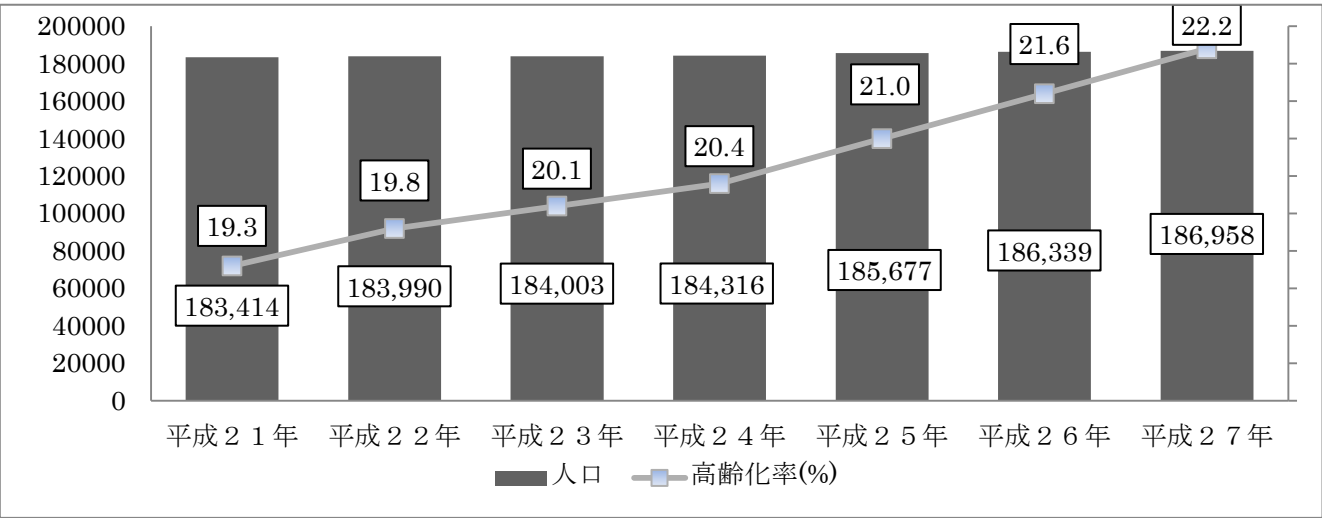


小平市の健康状態(1)

小平市の人口と世帯

(1) 人口の推移と高齢化率

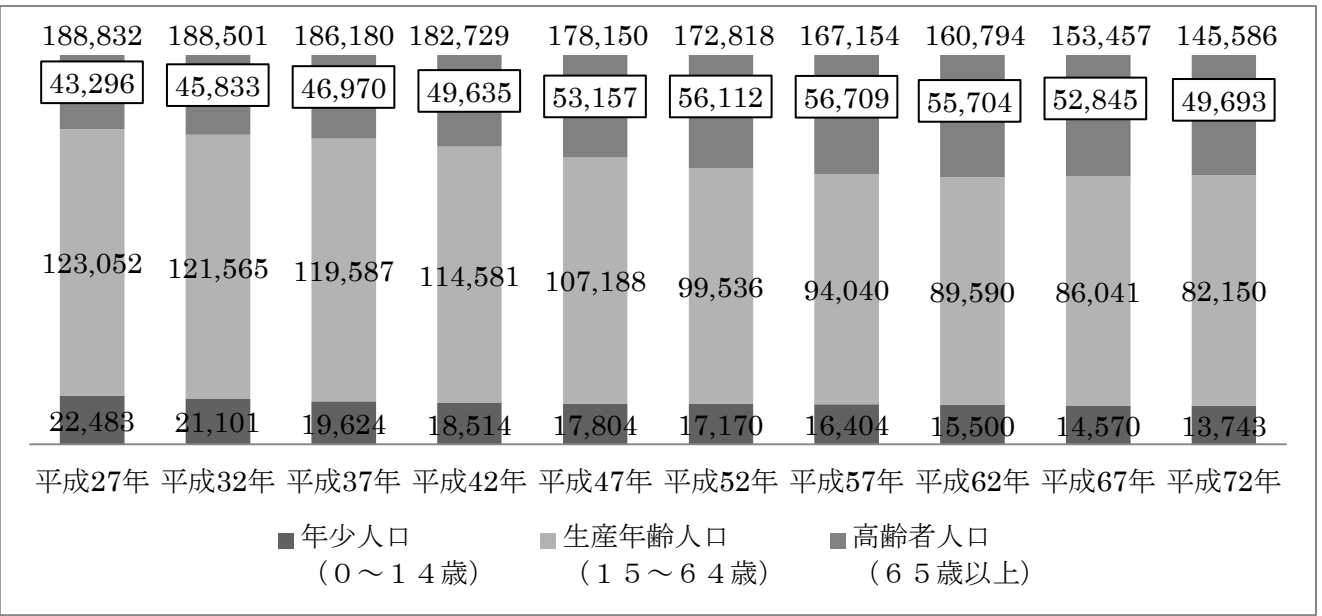
- 小平市の人口は増加しており、現在も微増の状態が続いている。
- 高齢者人口（65歳以上）についても増加傾向にあり、平成26年40,266人、平成27年41,586人、高齢化率は、21.6%、22.2%となっている。



(平成26年小平市統計書より)

(2) 推計人口

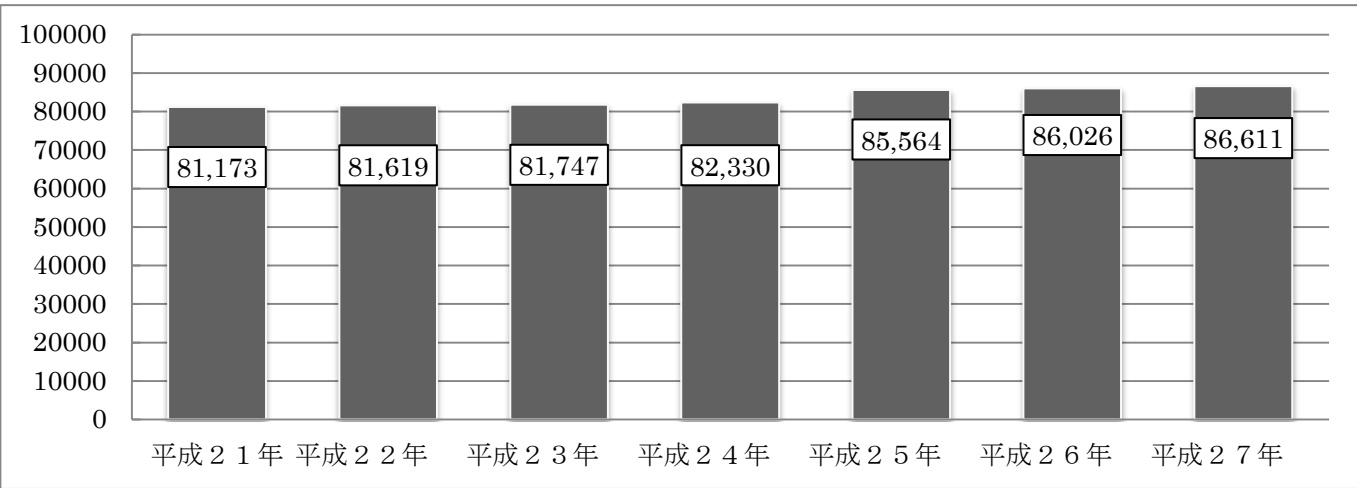
推計人口では平成27年度から減少傾向になる一方、高齢者人口（65歳以上）は増加が予測されており、平成57年は56,709人でピークに達する見込みとなっている。



※小数点以下を端数処理しているため、総人口が年齢3区分の合計値と一致しない場合がある。
(小平市人口推計報告書より)

(3) 世帯数の推移

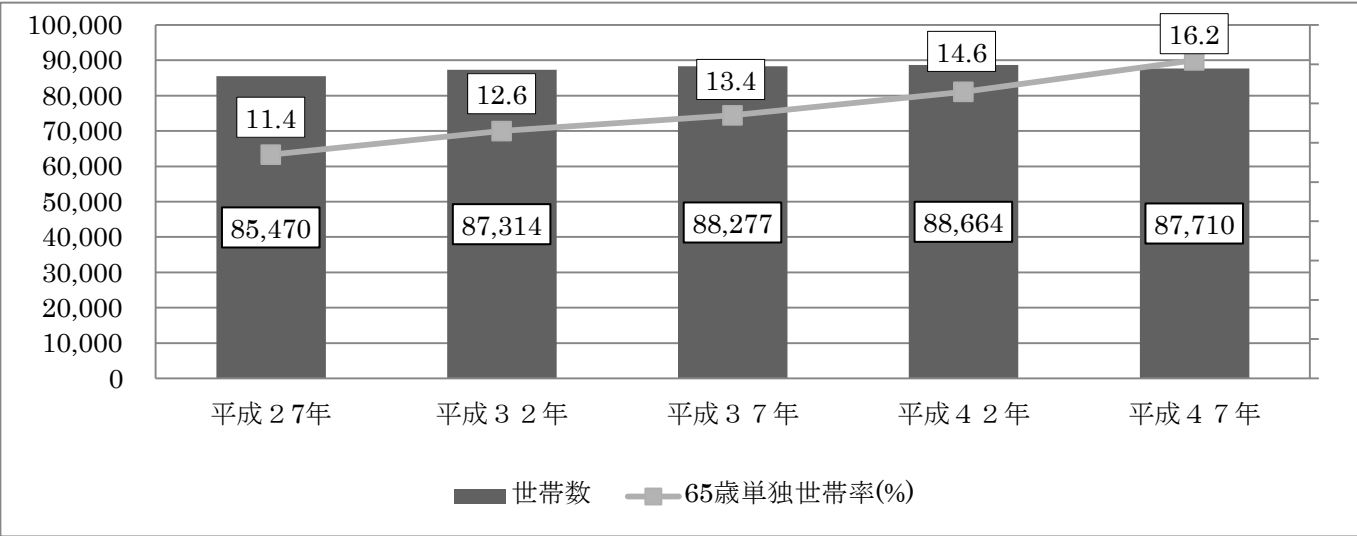
世帯数も増加傾向である。平成25年度からは微増になっている。



(住民基本台帳各1月1日時点)

(4) 推計世帯数

平成42年までは増加し続けていく見込みで、その内65歳以上の単独世帯数も増加の傾向にあり、全体に占める割合は平成47年には16.2%となっている。



(東京世帯数の予測「東京都総務局」)

小平市の健康寿命

(1) 65歳健康寿命

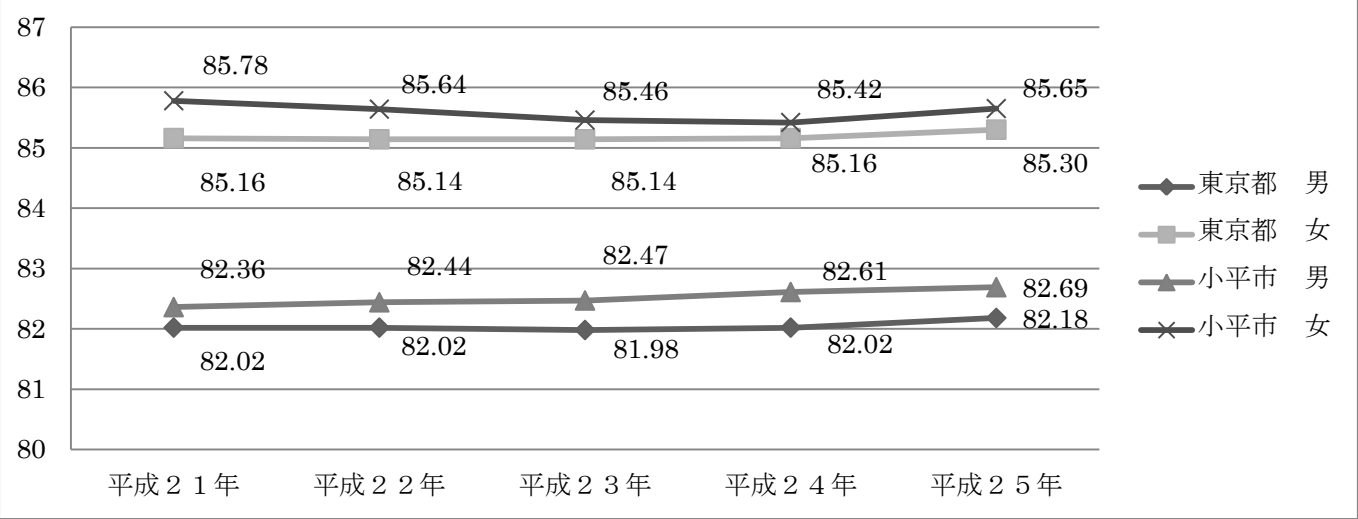
65歳健康寿命（東京保健所長会方式）

現在、65歳の人が、何らかの障がいのために要介護認定を受けるまでの状態を“健康”と考え、その障害のために要介護認定を受けた年齢を平均的に表すものをいう。

東京都では、「要介護2以上」「要支援1以上」の2つのパターンで健康寿命を算出している。

①要介護2以上

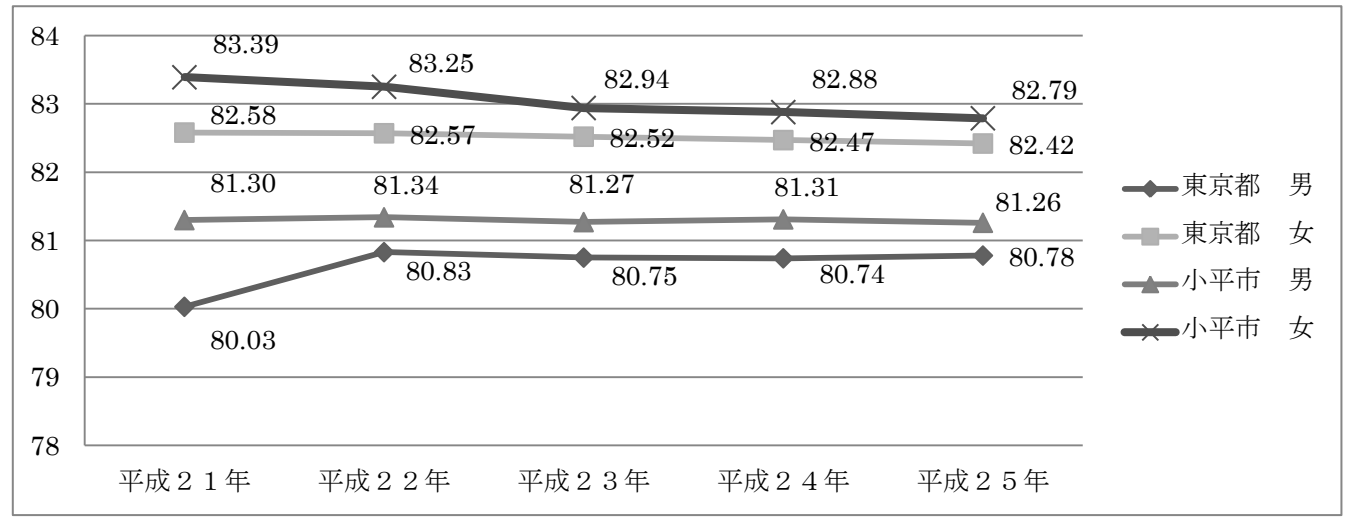
女性は過去5年間、85歳代で推移しており、東京都の数値を上回っている。男性は女性と比べると全体的に低いが、東京都の数値は上回っており、82歳代を維持している。



都内26市との比較（平成25年）では、男性は15位、女性は12位となっている。

②要支援1以上

男性、女性ともに東京都の数値を上回っている。男性は81歳代を維持しているが、女性はここ2～3年で少し下がっている。

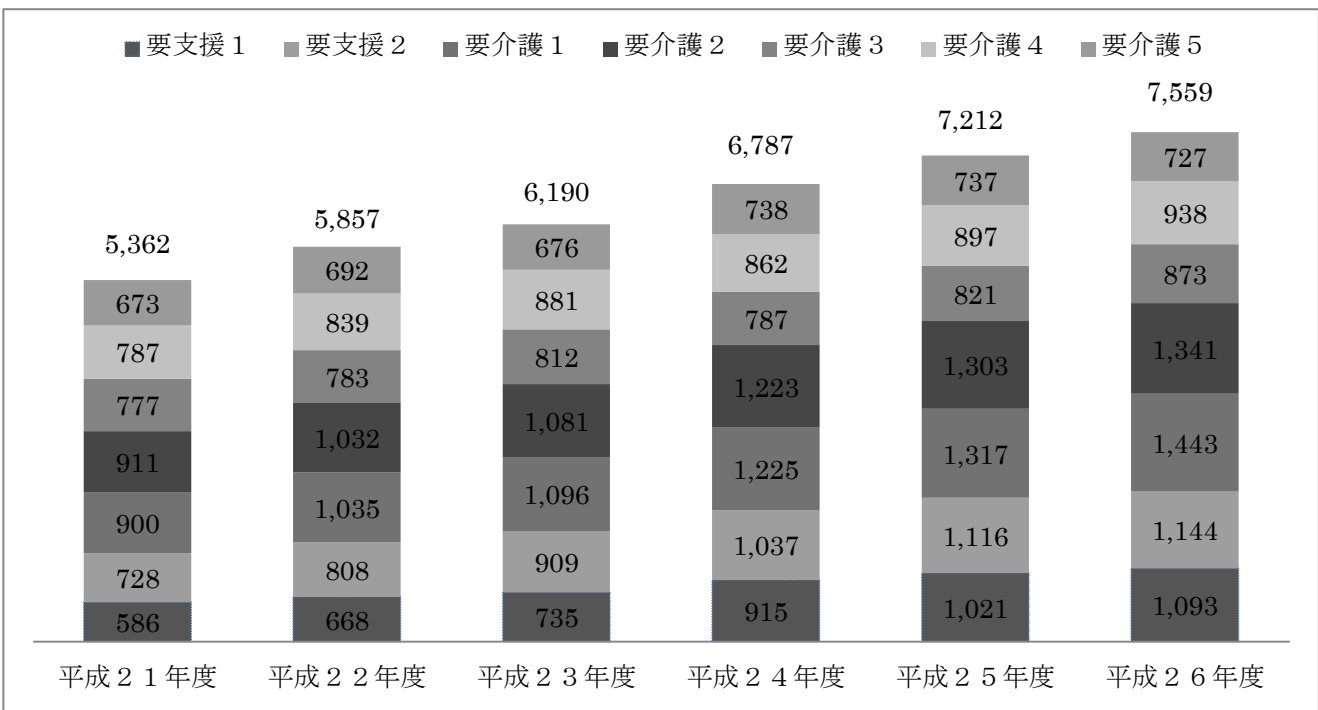


（東京都福祉保健局資料）

都内26市との比較（平成25年）では、男性12位、女性10位となっている。

小平市の要介護(要支援)認定者の推移

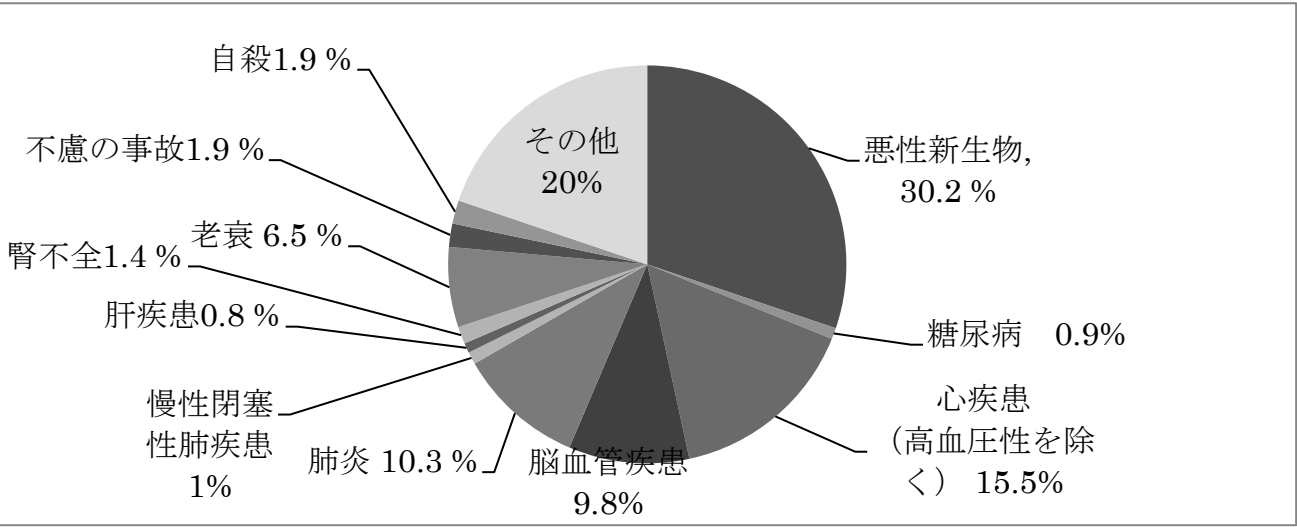
全体的な増加傾向にあり平成26年度は7,559人となっている。



（介護保険事業の概要※平成26年度数値は決算特別委員会参考資料集より）

小平市の死因別死亡数の推移

(1) 死因別割合（平成25年）



（北多摩北部医療圏保健医療福祉データ集平成26年版）

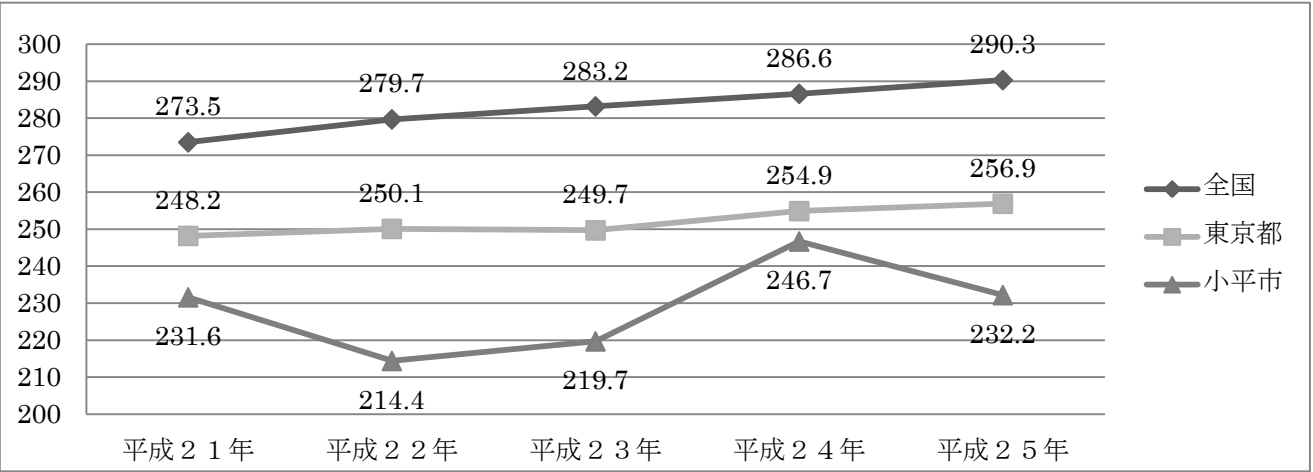
- 1位 悪性新生物 2位 心疾患（高血圧性を除く） 3位 肺炎 の順位となっている。
- 過去5年間の主要死因別人数を調べると3位の肺炎が脳血管疾患に変わる年があるが、1位2位は変わっていない。

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
悪性新生物	433（1位）	401（1位）	411（1位）	464（1位）	438（1位）
心疾患	246（2位）	199（2位）	222（2位）	235（2位）	224（2位）
脳血管疾患	130（3位）	127（3位）	120	152（3位）	141
肺炎	117	142	147（3位）	142	150（3位）

(2) 主要疾患別死亡数推移（人口10万人対）

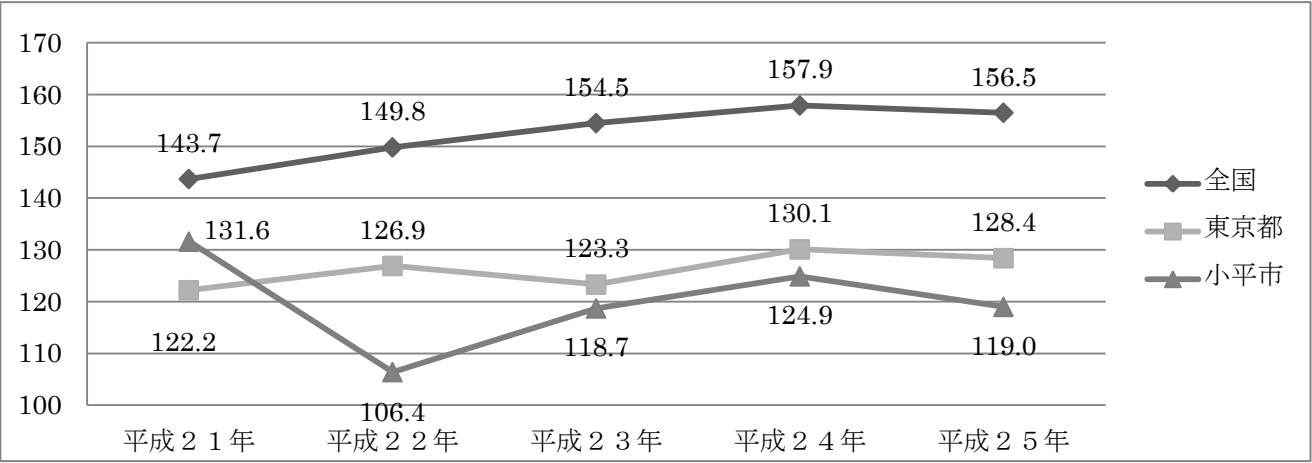
①悪性新生物

- 全国、東京都を下回っている。



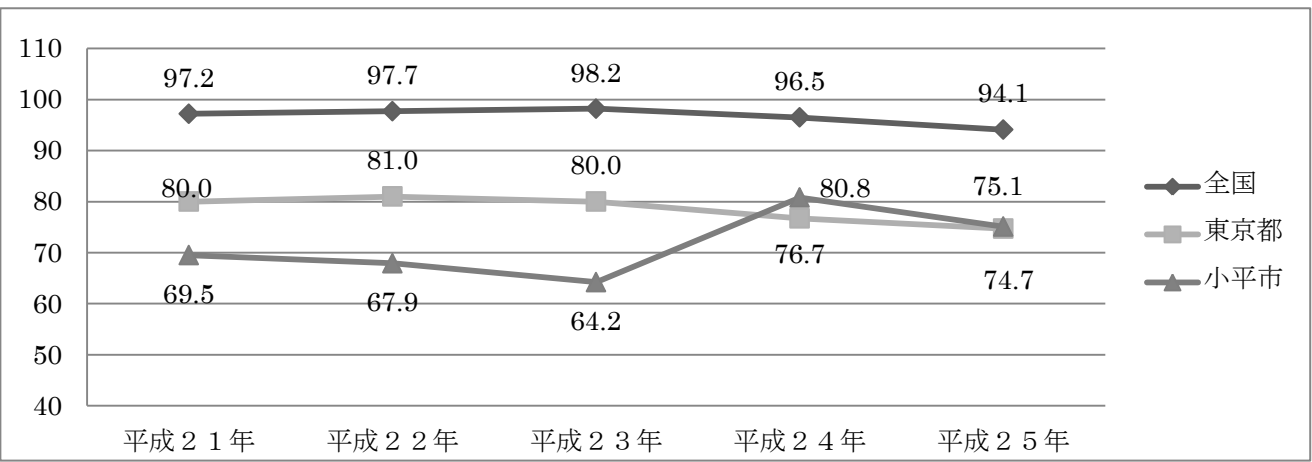
②心疾患

- 平成21年以外は、全国、東京都を下回っている。



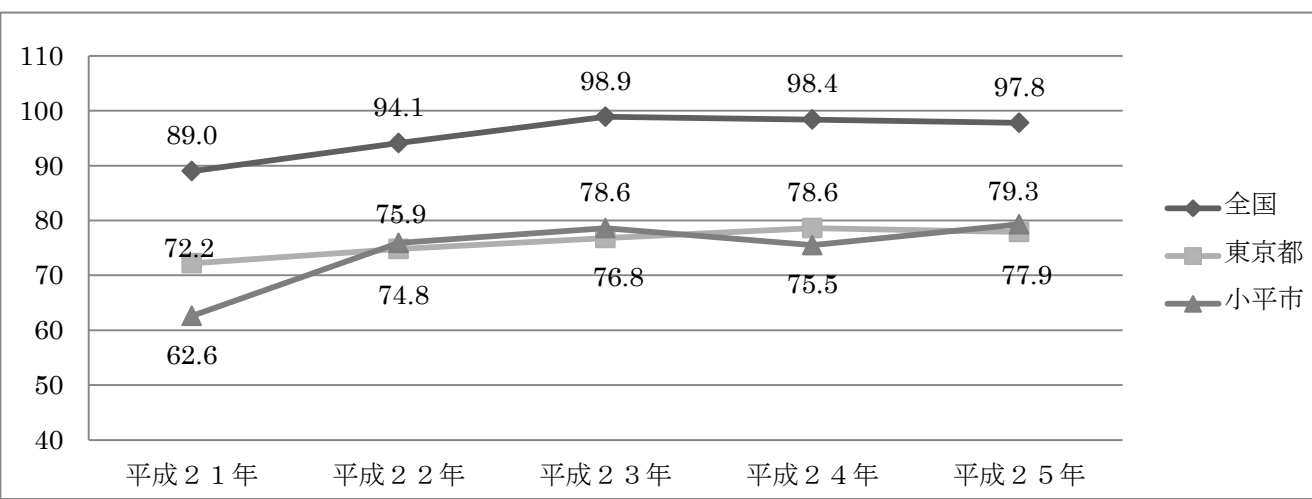
③脳血管疾患

- 平成24、25年と東京都の数値を上回っている。



④肺炎

- 全体的に、東京都の数値を上回っているか同水準で推移している。



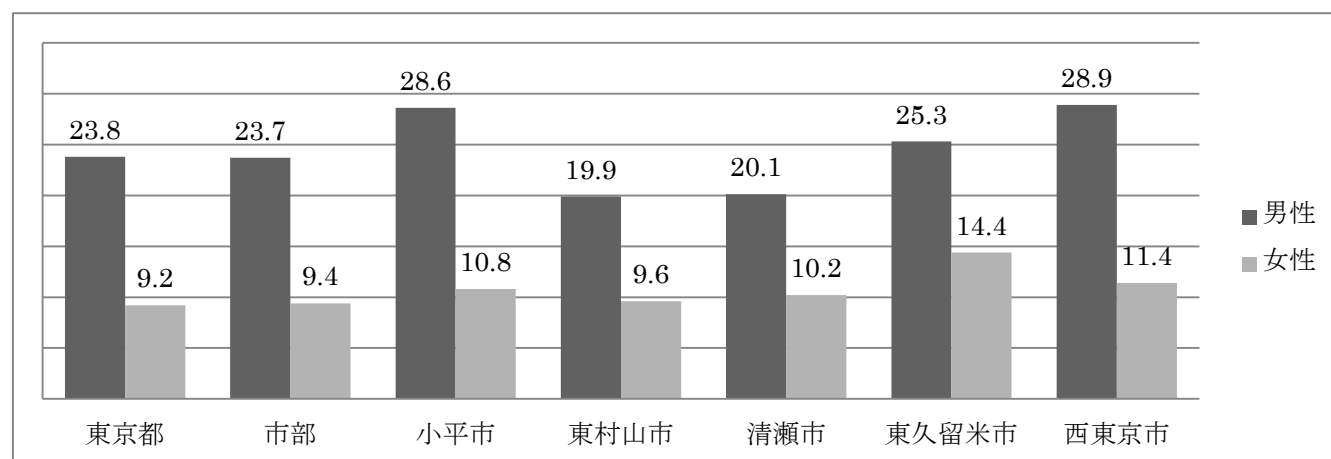
(2) 年齢調整死亡率（直接法）

年齢調整死亡率とは、年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整し、そろえた死亡率のこと。

直接法とは、比較する対象間で年齢構成に偏りがある場合、標準とする集団の人口構成と同一であると仮定した場合の仮の死亡率を計算して比較する方法のこと。

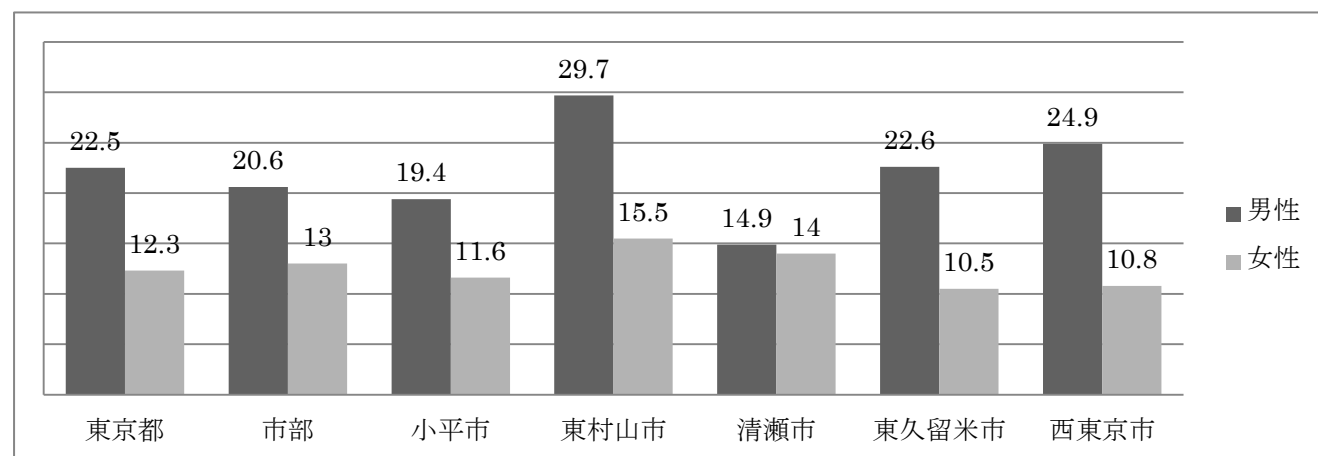
（北多摩北部保健医療圏保健医療福祉データ集平成24年度データより）

①胃がん



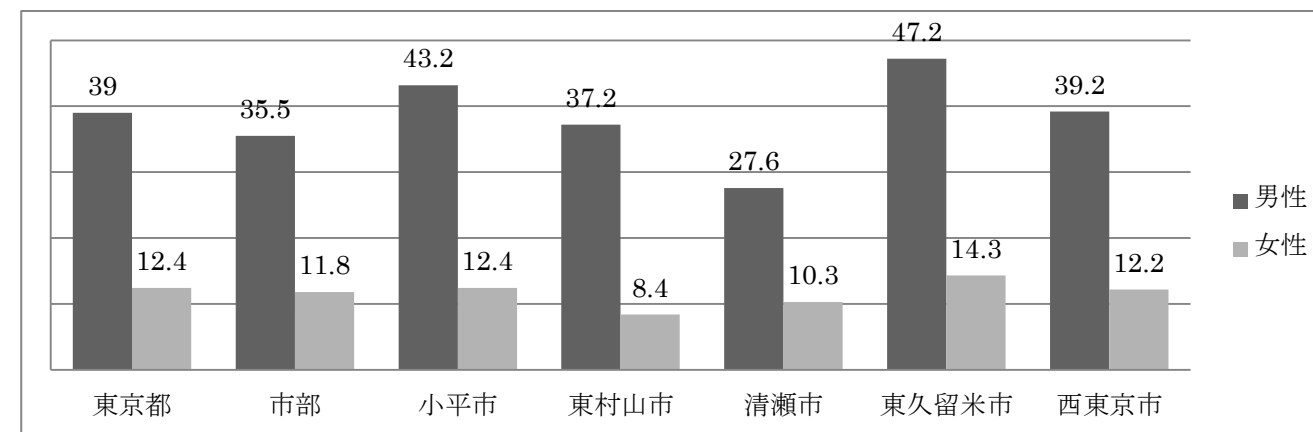
- 男女とも東京都と市部を上回っている。
- 5市の比較では、男性は2番目に高く、女性は3番目に高い。

②大腸がん



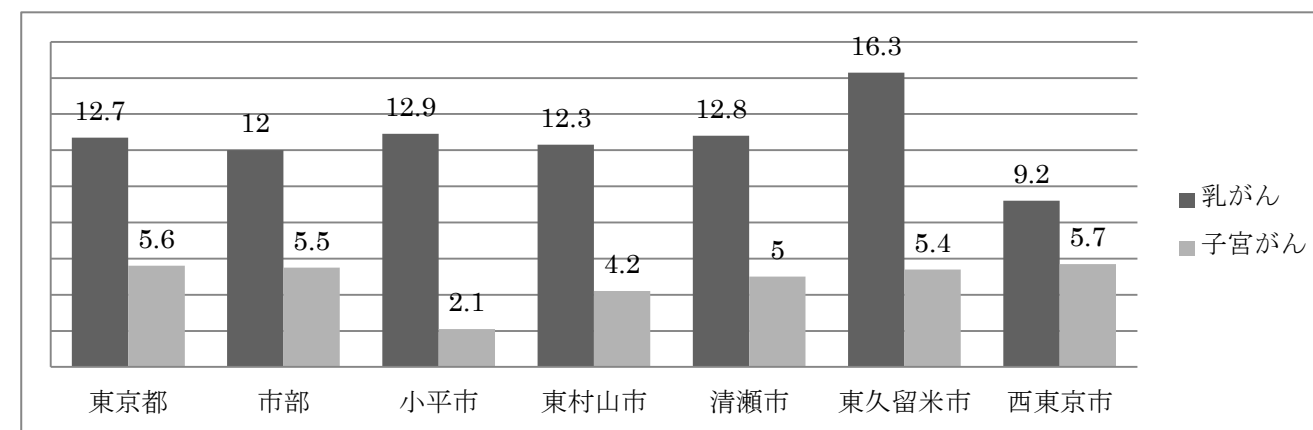
- 男女とも東京都と市部を下回っている。
- 5市の比較では、男性は4番目、女性は3番目に高い。

③肺がん



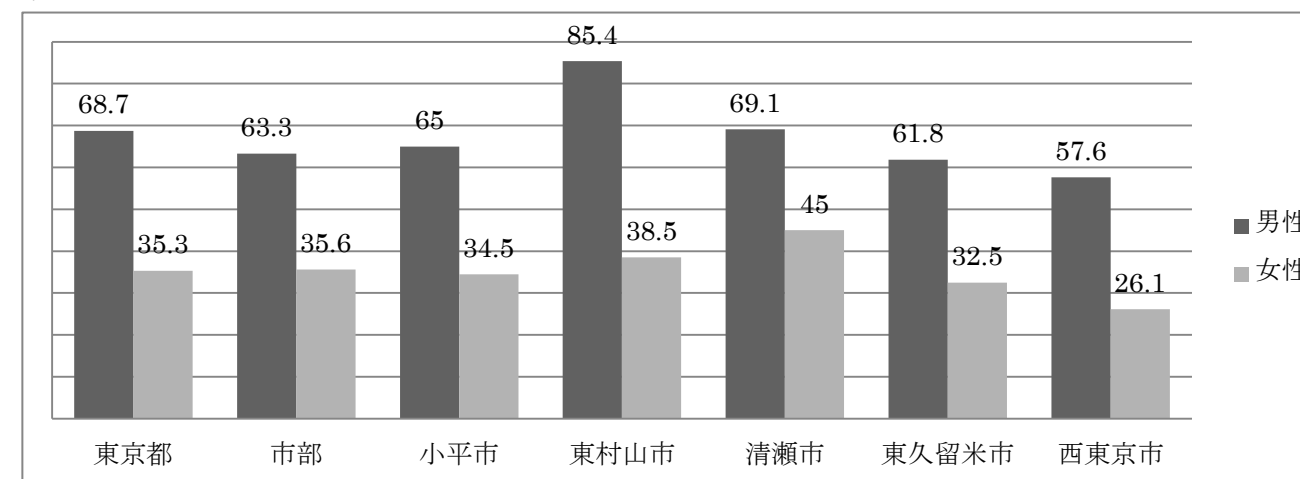
- 男性は東京都と市部を上回っている。女性は東京都と同率で市部を上回っている。
- 5市の比較では、男性は2番目に高く、女性も2番目に高い。

④乳がん・子宮がん



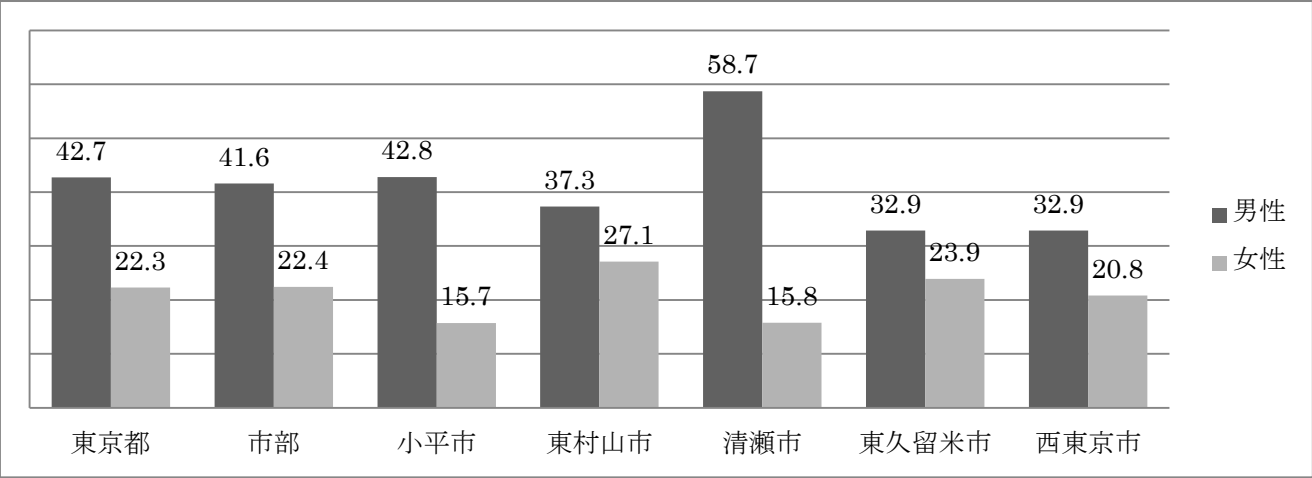
- 乳がんは東京都と市部を上回っている。子宮がんは東京都と市部を下回っている。
- 5市の比較では、乳がんは2番目に高い。子宮がんは一番低い。

⑤心疾患



- 女性は、東京都と市部を下回っているが、男性は市部を上回っている。
- 5市の比較では、男性は3番目に高く、女性は3番目に高い。

⑥脳血管疾患

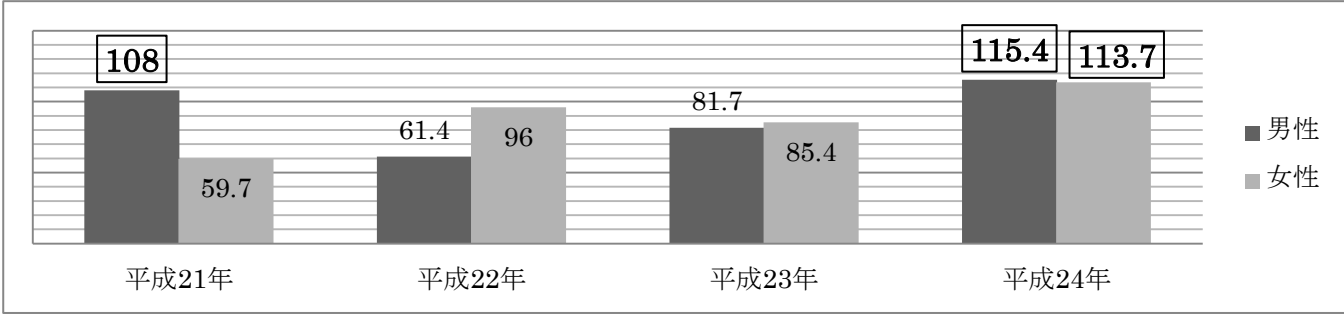


- 男性は東京都と市部を上回っている。 女性は東京都と市部を下回っている。
- 5市の比較では、男性は2番目に高く、女性は一番低い。
- ◇ 男女共に東京都と市部を上回っていたのは、「胃がん」であった。
- ◇ 乳がんは東京都と市部を上回っていた。
- ◇ 「肺がん」は男性が東京都と市部を上回っており、女性は東京都と同率で市部を上回っていた。
- ◇ 「心疾患」は男性が市部を上回っている。
- ◇ 「脳血管疾患」は男性が東京都と市部を上回っている。

(3) 標準化死亡比推移 平成22年～平成24年度

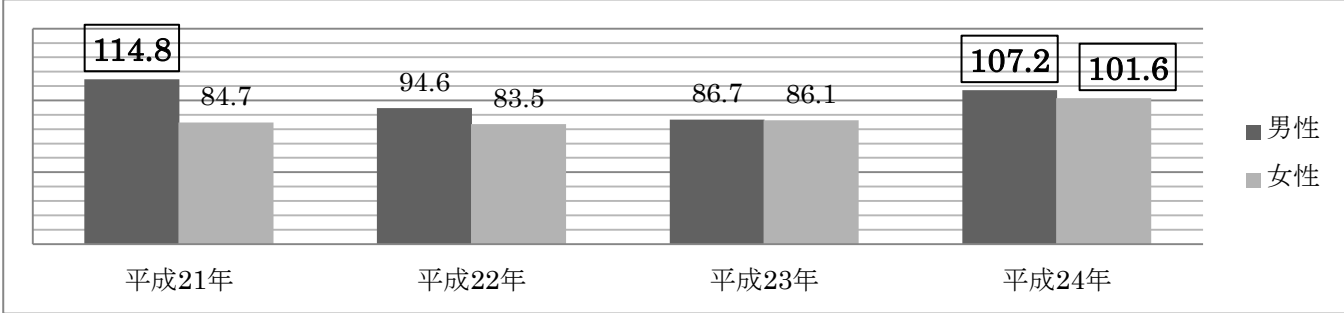
標準化死亡比とは、年齢構成の差異を基準の死亡率で調整した値に対する現実の死亡数の比である。東京都の値を100としており、この値が100より高い場合は、標準より死亡率が高い。(北多摩北部保健医療圏保健医療福祉データ集)

①胃がん



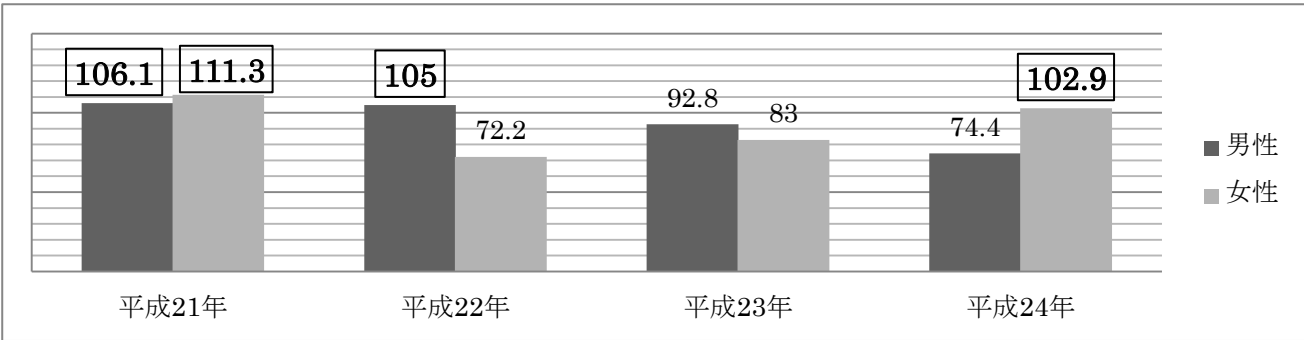
- 平成21年男性、平成24年は男性、女性ともに基準値より高い

②肺がん



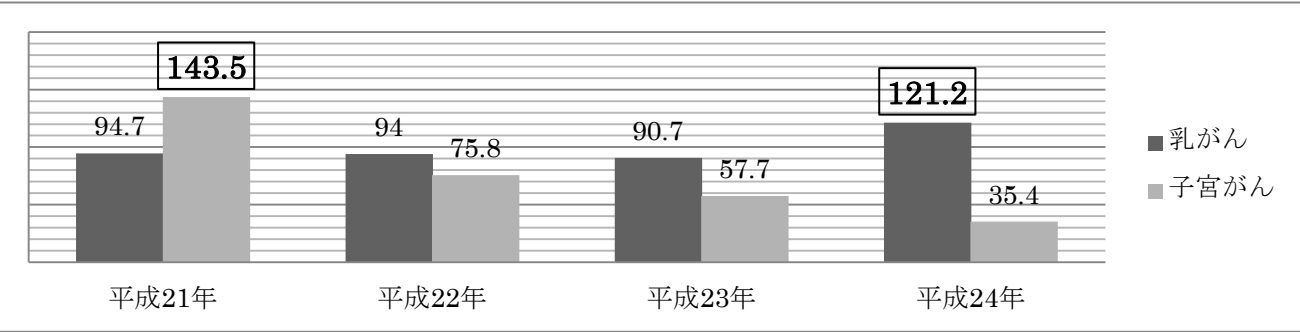
- 平成21年男性、平成24年男性、女性が高い
- 男性は高い数値で推移している。

③大腸がん



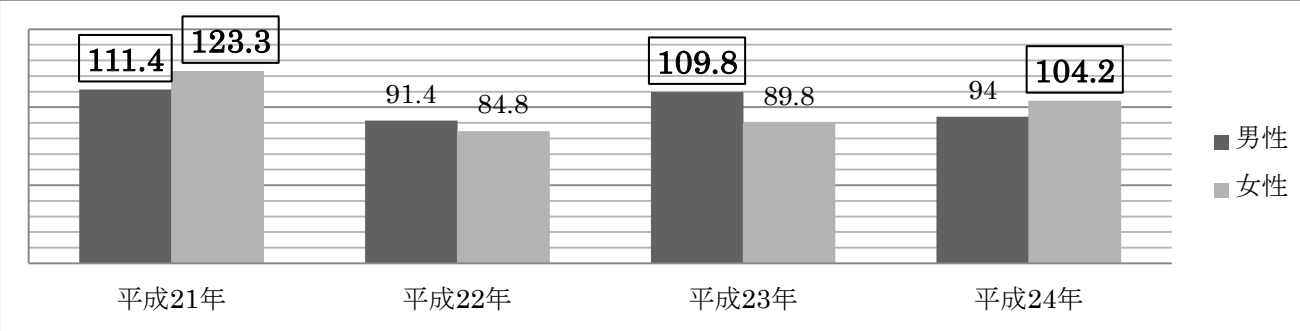
- 平成21年度男女、22年男性、24年女性が基準値より高い。

④乳がん・子宮がん



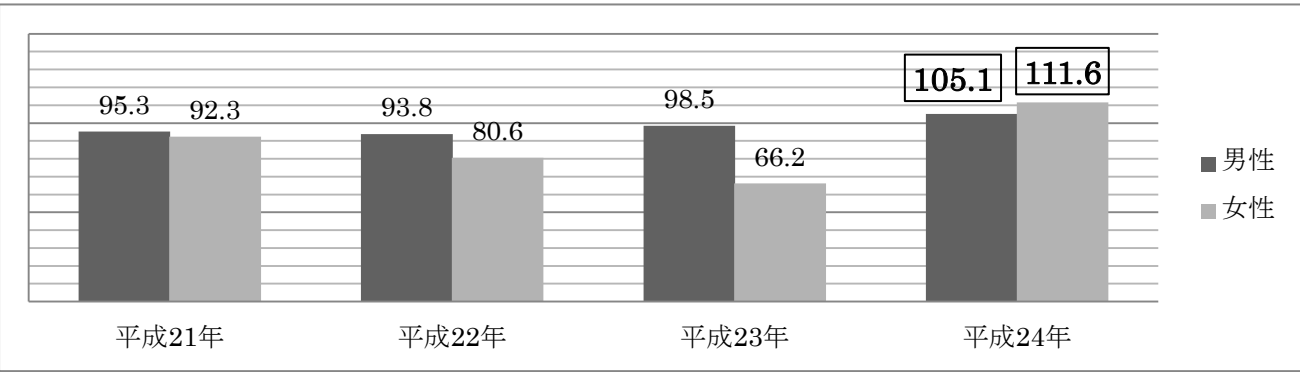
➤ 平成21年度子宮がん、平成24年度乳がんが基準を超えている。乳がんは高い数値で推移している。子宮がんは減少傾向にある。

⑤心疾患



➤ 平成21年度は男女、23年度は男性、24年度は女性が基準より高い。

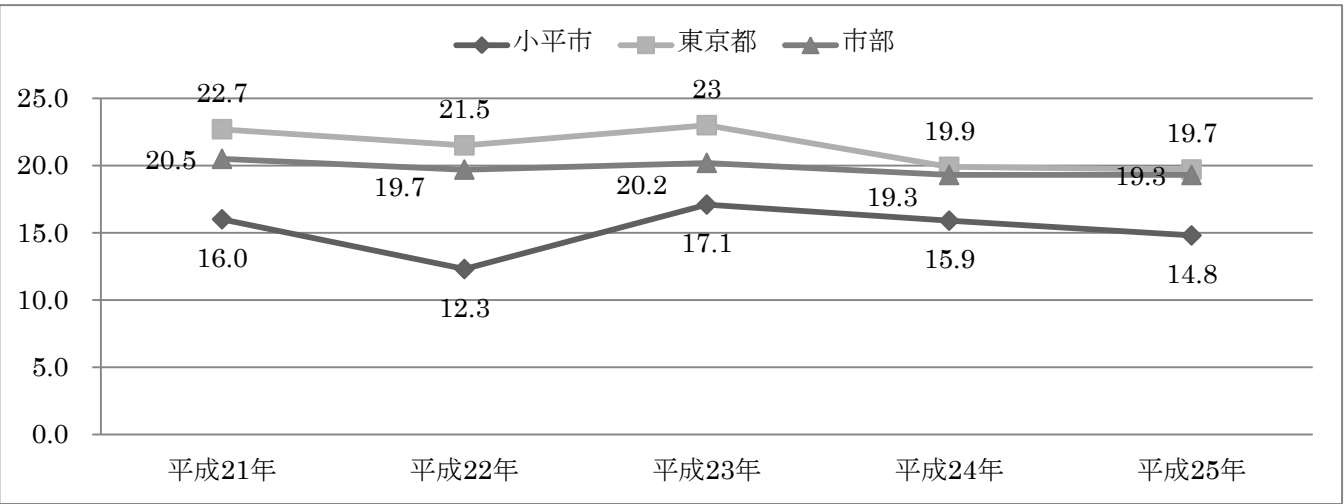
⑥脳血管疾患



➤ 平成24年度のみ基準を超えている。男性は高い数値で推移している。

自殺件数及び自殺死亡率の推移

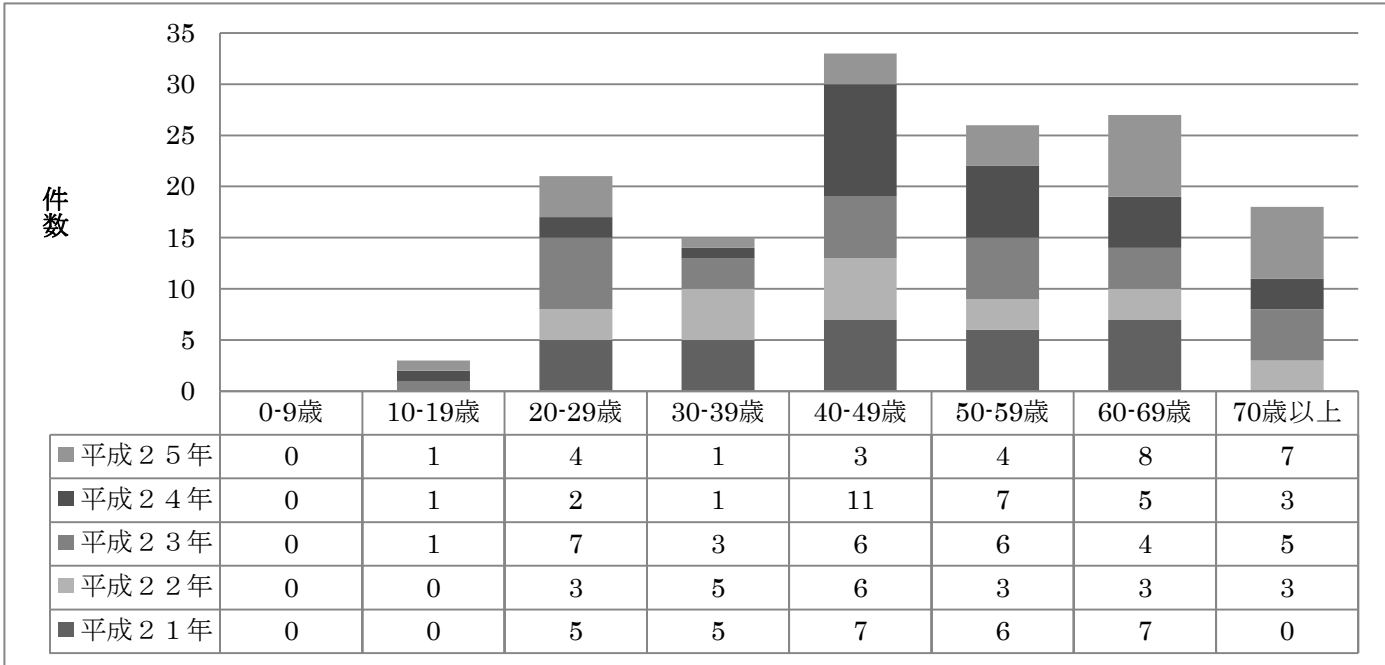
(1) 自殺死亡率の推移（人口10万対％）



(北多摩北部保健医療圏保健医療福祉データ集)

➤ 過去5年間では、自殺死亡率は東京都や市部より低く推移している。

(2) 自殺件数と年齢区分



- 自殺件数は、平成21年は30人、平成22年は23人、平成23年は32人、平成24年は30人、平成25年は28人となっている。
- 年齢別についてみると、この5年間で40代が最も多くなっている。
- 自殺件数の男女比は、東京都や市部と同様に、平成24年以外は男性が多い。